

平成22年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

平成22年6月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の課題（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の課題（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の課題（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の課題（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の課題（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

資 料

平成22年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況
（入学定員・入学志願者数・合格者数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

国 語

1 結果の考察

㊦は、文学的な文章についての基本的な読む能力を中心に、書く能力や言語事項の基礎的な知識・理解をみることをねらいとしている。結果は、問三、四、六の正答率が高く、問八についても、部分点を含めて8割程度の得点であった。基本的な読む能力や書く能力については良好である。ただし、問二の単語の類別や、問五の慣用句に関する問題については、正答率が5割に達しなかった。「読むこと」の学習においても、基礎的な知識・理解の学習と、それらを活用し、読みを深める学習を心掛けたい。

㊧は、説明的な文章についての基本的な読む能力を中心に、書く能力や言語事項の基礎的な知識・理解をみることをねらいとしている。結果は、問三(2)、五の正答率が高い。また、設問の文章と照応させながら本文のキーワードをとらえ、整理する問六についても、正答率が高い。論の展開やキーワードを意識しながら筆者の考えをとらえる能力については良好である。問四、七は、読み取った筆者の考えを、設問で求めている内容となるように、まとめ方を考え、適切に表現する力をみる問題だが、正答率が低い。高等学校からは、本文を単に抜き出して表現し、前後のつながりや、まとまりに欠けた答案が多かったという報告が寄せられている。

㊨の古文は、平易で、現代にも通じるものを取り上げ、基本的な読む能力をみることに主眼をねらいである。問一の正答率は高く、歴史的仮名遣いの学習がよく行われていることがうかがわれる。また、問三、五も正答率が6割を超えており、古文の内容を理解する力についてはおおむね良好である。ただし、問四については正答率が低い。今後も、読み取った内容を文脈に応じて適切に表現する学習に取り組ませたい。

㊩の問一は、「学年別漢字配当表」の漢字を書く力をみる問題である。「省く」、「展覧」の正答率が比較的低いものの、全体的に正答率が高く、良好な結果である。問二の選択問題のうち、Aは、はがきの書き方の基礎的な知識・理解と敬語を適切に用いて表現する力をみる問題であり、Bは近代の唱歌を題材に、表現技法についての基礎的な知識・理解とその表現技法をもとに詩歌の内容を理解する力をみる問題である。Bの(1)は正答率が6割程度であったが、それ以外は高い正答率であり、日ごろの基礎的な学習は定着している。

㊪の作文は、8割を超える受検者が9点以上得点しており、基本的な書く能力については良好である。ただし、内容については、具体性が不足している答案が目立ち、自分の思いや考えに説得力をもたせることのできているものは少なかったという報告が、高等学校から寄せられている。

2 今後の課題（授業改善のポイント）

(1) 国語を適切に表現し、正確に理解する能力のさらなる充実を

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の、どの領域の授業においても、様々な言語活動により基礎的・基本的な技能の向上を図る必要がある。その上で行う伝え合いの学習過程では、伝える内容を適切に表現する能力や、他者が伝えたい内容を正確に理解する能力が一層養われるように、授業の視点や在り方を考えたい。

(2) 言葉への関心が養われるような「言語事項」の学習を

言葉の特徴やきまりへの関心が養われるよう、言語事項に関する学習における指導の在り方を工夫したい。

(3) 「楷書で丁寧に書く」ことができるような書写の指導を

字が粗雑であるという高等学校からの声が、年々多くなってきている。「楷書で丁寧に書く」ことができるように、書写の授業で基礎・基本をしっかりと身に付けさせたい。

問	正 答	配 点	備 考
一	<p>① a ココロ(がして) 99.5 b しんげん 100</p> <p>② 47.7</p> <p>(例) 落ち着いて歌うように、「ほく」にもっと伝えたかったから。 77.4</p> <p>ぼう然として、そこに立ちつくしている。 81.4</p> <p>(例) 得意でいた気分をそこねたということ。 47.7</p> <p>(例) 怒って、もう歌を教えてくれなくなる。 79.2</p> <p>エ 58.5</p> <p>(例) どんな困難な状況でも、最後にたよれるのは自分だけだから、一人でやりとげなければならないということ。</p>	25	<p>問三 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p> <p>問五 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p> <p>問八 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
二	<p>a ふんいき 91.1 b も 72.5</p> <p>ウ 92.2</p> <p>(1) 使う人間から切り離して 53.4</p> <p>(2) 4 76.8</p> <p>(例) 全体の場で使われていることばの意味やよさを、実感できるということ。 31.5</p> <p>ア 62.8</p> <p>I 情報 46.4 II 複雑 73.0 III 多様 78.4 IV コミュニケーション 89.2</p> <p>(例) 話し手が伝えたいことを、正しく理解しようと努力する誠実さと熱意をもって、質問をするということ。</p>	26	<p>問四 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p> <p>問六 IIとIIIの順序は問わない。</p> <p>問七 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
三	<p>イ さわがしく 97.0</p> <p>54.7</p> <p>(例) 早く宿を出発して、早く次の宿に到着すること。 61.7</p> <p>(例) 星の明るいうちに寝る。 31.5</p> <p>エ 63.9</p>	15	
四	<p>1 額 86.5</p> <p>2 省(く) 67.9</p> <p>3 建築 81.7</p> <p>4 展覧 68.5</p> <p>5 尊念 72.2</p> <p>(選択問題)</p> <p>A (1) c</p> <p>(2) (例) ご自宅にいらっしゃる時、遊びにうかがう</p> <p>B (1) b</p> <p>(2) (例) うさぎを追ったあの山</p>	16	<p>問一 A</p> <p>(2) 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
五	<p>【評価の観点】</p> <p>(1) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題名に即した自分の体験が、具体的に述べられているか。 ○ 「わたしを笑顔にしてくれた言葉」に対する思いや考えが、明確に述べられているか。 <p>(2) 構想・叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一段落または二段落で構成されており、文章の組み立てや展開が適切で、全体のまとまりがあるか。 ○ 叙述の仕方が的確で、工夫がみられるか。 <p>(3) 書写・表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字が正しく、整っており、表記が適切であるか。 	18	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 採点基準は、【評価の観点】を踏まえ、各学校において適切に設定すること。 ◇ 採点は、各名以上で行い、それぞれ18点満点とすること。 ◇ 採点者は全答案を通して採点し、評価、評点のゆれがないよう留意すること。 ◇ 評点は、各採点者による点数を平均(端数切り上げ)したものとすること。
合計		100	

(注意) 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

社 会

1 結果の考察

①は、緯線や経線をもとに、世界の国々の位置関係をとらえる力や、世界の国々について、資料を読み取り、思考・判断する力をみることをねらいとした。資料を読み取る設問の正答率は、設問によって3割～9割と差がみられた。さらに資料から読み取ったことや既習内容をもとに考察し、判断することが必要な設問の正答率は、4～6割程度にとどまった。地図や資料から地理的事象を多面的・多角的にとらえる力を養いたい。

②は、日本の地域構成や都道府県についての知識・理解と、都道府県についての資料を読み取り、思考・判断する力をみることをねらいとした。単純に資料からデータを読み取り、正解を導き出すことのできる設問の正答率は8割に迫る結果であったが、都道府県の知識と統計資料から読み取ったことを関連させて解く設問の正答率は低かった。学んだ知識を活用しながら、資料の数値が意味するものを丁寧に読み取る技能の習熟を期待したい。

③は、各時代の歴史と山形県とのかかわりをテーマに、古代から近世までの日本の歴史の流れをとらえる力や、各時代の政治、社会、経済の特色についての知識・理解をみることをねらいとした。正答率は、一部を除いて7割に達せず、特に記述式問題の正答率が低かった。基本的な歴史用語を十分に理解し、その内容を的確に表現できる力を養いたい。また、「身近な地域の歴史」に関する設問の「出羽国」については、正答率が1割台にとどまる結果であった。今後とも、生徒の身近な地域に対する関心・意欲を引き出していく指導を期待したい。

④は、近現代の日本の歴史の流れをとらえる力や、年表や資料から歴史的事象について読み取る力をみることをねらいとした。正答率は、2～6割程度にとどまり、特に歴史の流れを問う問題の正答率は2割台であった。複数の事象を関連付けて理解する力や、歴史的事象を多面的・多角的にとらえる力の育成を期待したい。

⑤は、地方自治のはたらきや人間尊重、世界平和などに関する基本的事項の知識・理解や、時事的な事柄に対する関心・意欲をみることをねらいとした。記述式問題については、普段からの時事問題に対する興味・関心の程度が、得点の差となったと考えられるという報告が高等学校から寄せられている。現代社会に関心をもち、自ら学び考えようとする態度の育成を期待したい。

⑥は、身近な消費生活と経済活動などについての基本的事項の知識・理解や、資料から社会的事象について読み取る力、社会的事象について理解していることを適切に表現する力をみることをねらいとした。知識を活用する問題と記述式問題の正答率が低く、特に記述式問題においては、表現力不足が目立つという報告が高等学校から寄せられている。社会的事象を学習する上での基本的な知識や概念の確実な定着を求めたい。

2 今後の課題（授業改善のポイント）

(1) 社会的な思考力・判断力・表現力を高める授業の充実を

「何に気付かせるか」、「何を考えさせるか」という見通しのある思考過程を大切にし、比較、関連、総合等の考える視点を明確にさせながら、考察する時間を十分に設け、相違点や共通点に気付かせたり、根拠をもとに自分の考えをまとめ、表現させたりできるよう指導の工夫を図りたい。

(2) 問題解決的な学習の一層の充実を図り、社会の形成に参画する態度の育成を

身近な問題や時事的な題材などを積極的に取り上げ、社会的事象に対する生徒の関心を高め、実生活と社会との関係を理解した上で、社会の諸問題の解決に向けて積極的にかかわろうとする態度の育成を図る指導を充実させたい。

社 会 問題別正答率 (%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

問	正 答	配 点	備 考	
1	問1 (1) 3月10日午後5時 (2) (備考欄に示す。) (3) (例) A国に比べて、年少人口の割合が低く、老年人口の割合が高い。	54.3 78.2 91.4	18 選択率 Ⓐ32.8 Ⓑ65.6 無答率 1.6	問1(2) A国の人口ピラミッド (2006年) 歳 (男) (女) 問4Ⓑ(1) 「EU」などでもよい。
	問2 (1) ポルトガル語 (2) エ	11.6 66.9		
	問3 ウ	29.6		
	問4 《選択問題》 Ⓐ (1) 長江 (2) (例) ①の都市より②の都市の標高が高いから。 Ⓑ (1) ヨーロッパ連合 (2) (例) 関税がないから。	44.3 38.5 86.1 62.7		
2	問1 (1) 琵琶湖 (2) (例) 家庭からの排水の流入が増えたから。	65.9 70.4	17	
	問2 エ	46.8		
	問3 (1) 大阪府 (2) ア	79.3 41.7		
	問4 (1) エ (2) (例) 山の斜面。	80.1 42.5		
3	問1 出羽(国)	15.3	17	問4(1) 「大名が同盟を結ぶことを禁止した。」 などでもよい。
	問2 (1) 中尊寺金色堂 (2) ア	34.4 36.8		
	問3 (1) イ (2) (例) 営業を独占すること。	50.8 17.5		
	問4 (1) (例) 大名が無断で城を修理することを禁止した。 (2) 徳川吉宗	41.1 47.0		
4	問1 ウ	56.2	18	問2(1) 全部できて正答とする。 問3 「日本が山東省の権益を中国に返す。」 などでもよい。 問6 「オイルショック」などでもよい。
	問2 (1) エ → イ → ウ → ア (2) 孫文	22.8 55.4		
	問3 (例) 海軍の軍備を制限する。	17.5		
	問4 (1) イ (2) ア	26.1 50.8		
	問5 (例) 農地改革によって、多くの小作人に土地があたえられたか	62.4		
	問6 石油危機	58.1		
5	問1 (1) 条例 (2) イ	72.0 55.9	15	問2(2) 受検者の多様な考えや表現を積極的に評価すること。 問3(2) 「PKO」でもよい。
	問2 (1) 労働基準法 (2) (例) 子育てのための休暇制度の拡充。	45.2 52.2		
	問3 (1) 安全保障理事会 (2) 平和維持活動 (3) (例) 核兵器を、持たないこと、つくらないこと、持ちこませないこと。	55.9 50.8 93.3		
6	問1 (1) (X) 需要 (Y) 供給 (2) 公共料金 (3) (例) 市場が少数の企業によって支配され、価格競争が弱まる。	X73.9 Y77.2 62.9 36.0	15	問2(1) 「為替レート」でもよい。 (3) 受検者の多様な考えや表現を積極的に評価すること。
	問2 (1) 為替相場 (2) ア (3) (例) 輸入品の価格が下がり、安く購入できること。	16.7 32.0 69.9		
		合計 100		

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

数 学

1 結果の考察

①は、各学年で扱う内容のうち、特に基礎・基本を重視した問題を出題した。1の計算問題と2の二次方程式は、例年と同様に高い正答率であった。4は、最後まで作図できていない答案も少なからずあるが、様々な求め方で作図に着手しており、取組状況は良好であるという高等学校からの報告が寄せられている。5の選択問題は、図形領域の⑥を選択する率が高い反面、正答率は思わしくなかった。これら4と5の結果から、「ひし形」や「ねじれの位置」の定義や性質についての理解が不十分なままになっていると思われる。基礎・基本について、定義や性質をしっかりと理解させた上で、着実な定着を心掛けたい。

②は、事象を様々な角度から分析し、考察・処理する問題を中心に問題を出題した。1は、文字の置き方を二通り考え、それぞれの場合について連立方程式をつくる力と解く力をみることをねらいとした。題意を読み取って立式する(1)の正答率は8割弱と良好であるが、計算が伴う(2)は5割強であった。2は、円すいの展開図をもとに、平面図形と立体図形を関連させて考察する力をみることをねらいとした。正答率は(1)が約3割、(2)が2割と、受検者個々の力の差が顕著に現れた。4は、平方根の知識と文字式を利用する力をみることをねらいとした。平方根で表された数の大きさを考える(1)の正答率は7割であったが、個数を文字を使って表現する(2)の正答率は4割を下回った。一つ一つの問題において、解く過程を大切にする学習、即ち、条件整理、立式、計算、検算や検証といった段階ごとのつまずきを克服していく学習をさらに充実させたい。

③は、身近な事象とグラフを関連付けて考察する問題を出題した。1(3)は、グラフをかき、切りかえた時間を読み取る設問であり、良好な結果であった。また、2のグラフを使って考察する設問については、部分点にとどまる受検者が多く、二つある答のうち、分数値になるものが求められなかったと考えられる。グラフを利用して考える姿勢を大切にしながら、自ら立式し計算する力をさらに高めたい。

④は、平面図形の問題で、図形の基本的な性質の理解と、論理的に説明する力をみることをねらいとした。1の証明問題について、昨年度に比べ完答の受検者及び部分点を得ている受検者の割合がともに増えた。中学校からは、おおむね基本的な問題であるとの意見が寄せられたが、高等学校からは、依然として論述が不十分な答案が多いことが報告されている。自分の考えを論理的に説明する練習をしっかりと積み、図形に関する思考力・判断力・表現力をさらに向上させたい。

2 今後の課題（授業改善のポイント）

(1) 基礎・基本について、意味理解が伴った確実な定着を

身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を明確化し、発問の仕方、説明の仕方、まとめや振り返りのさせ方等を工夫し、生徒が意味を理解し納得できる指導を心掛けたい。

(2) 根拠を明確にした説明ができる力の育成を

生徒自ら考えたことを発表したり説明したりする場面を授業に多く取り入れ、図・表・式や数学の用語・記号などを積極的に用いながら、論理的に考察し表現する力を身に付けさせたい。

(3) 粘り強く取り組み、自ら考える問題解決的な学習を

様々な視点で問題を分析し、試行錯誤の中から法則を見いだしたり、解決の方法を工夫したり、結果や過程を振り返って考えたりすることを通して、学ぶことの楽しさや数学のよさを実感できる学習活動を一層充実させたい。

問	正 答	配 点	備 考							
1	(1) -9 (2) $-\frac{3}{8}$ (3) $x+18y$ (4) $3-2\sqrt{2}$ 97.3 93.5 96.0 90.6 2 (解き方は略。) $x=-4, x=2$ 3 $\frac{1}{5}$ 41.9 4 (作図例は右に示す。) 70.4 5 <選択問題> 選択率 ① 19.4 ② 77.2 ① 9 73.6 ② 19 cm 18.8	<table border="1"> <tr> <td>解き方</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>答</td> <td>85.5</td> </tr> </table>	解き方	89.0	答	85.5	32	1 計算式は略。 4 点Bと点Dは逆でもよい。 下のような作図例も含め、受検者の多様な考えを積極的に評価すること。		
解き方	89.0									
答	85.5									
2	1 (1) ① $\begin{cases} x+y=2800 \\ \frac{x}{80}+\frac{y}{200}=23 \end{cases}$ 79.0 ② $\begin{cases} x+y=23 \\ 80x+200y=2800 \end{cases}$ 76.6 (2) $\begin{cases} \text{歩いた道のり} & 1200 \text{ (m)} \\ \text{走った道のり} & 1600 \text{ (m)} \end{cases}$ 54.0 2 (1) 144° 32.3 (2) $12\pi \text{ (cm}^2\text{)}$ 20.7 3 (1) $\frac{5}{2}$ 70.4 (2) $-\frac{3}{4}$ 23.9 4 (1) 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24 73.1 (2) $2n$ (個) 35.5	31								
3	1 (1) ア 1 74.7 イ 20 60.8 (2) $y=-\frac{1}{5}x+5$ 37.9 (3) (グラフは右に示す。) 77.4 15 (時間後) 72.3 2 $\frac{40}{3}$ (時間後), 16 (時間後) 53.0		19							
4	1 <証明> (例) $\triangle ADC$ と $\triangle ECD$ において 共通な辺だから、 $DC=CD$① 仮定より、 $AC=AB$ 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから $ED=AB$ よって、 $AC=ED$② また、仮定より、 $\triangle ABC$ は $AB=AC$ の二等辺三角形だから $\angle ACD=\angle B$ $AB\parallel ED$ で、同位角が等しいから $\angle EDC=\angle B$ よって、 $\angle ACD=\angle EDC$③ ①、②、③より、2辺とその間の角がそれぞれ等しいので $\triangle ADC\cong\triangle ECD$ 2 (1) 120° 62.1 (2) 3:5 18.3 (3) $2\sqrt{7}$ (cm) 3.8	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>13.4</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>21.0</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>42.5</td> </tr> </table>	100%	13.4	50~99%	21.0	1~49%	42.5	18	
100%	13.4									
50~99%	21.0									
1~49%	42.5									
		合計 100								

[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

理 科

1 結果の考察

生物領域から出題した①は植物、②は動物について、それぞれ総合的な知識・理解などをみることをねらいとした。基本的な事柄を問う問題についてはおおむね良好であったが、短文で記述する問題では正答率が低かった。用語を正確に覚えることに加え、科学的な思考力・表現力を育てられるよう指導したい。①の問2については、裸子植物についての理解が、②の問3(2)については、筋肉の付き方について思考する力が、それぞれ不十分なのではないかとの指摘が高等学校から寄せられている。

地学領域から出題した③、④は、天気図や実際に観察された天文現象を題材として、天気の変化や太陽系についての知識・理解や、科学的な思考力などをみることをねらいとした。③の問1については、上昇気流という用語はよく定着しているが、雲の発生までの説明がなされていない解答が多かったとの指摘が高等学校から寄せられている。正しい用語や概念を使用して考えたり、説明したりするなどの学習活動を大切にしたい。④の問2について、観察された天動説的な見方をもとに地動説的な考察を行うためには、ICTの活用が有用である。実体験すべきところを代用することがないように留意しながら、効果的に活用したい。

化学領域から出題した⑤、⑥は、炭酸水素ナトリウムの分解や、エタノールの分留を題材として、実験の技能や、物質についての知識・理解などをみることをねらいとした。⑤では問2の正答率が高く、実験のデータを適切に処理する方法がよく身に付いていると考えられる。⑥では、問4の正答率が非常に高く、人間の生活や科学技術と自然環境との調和について、日ごろの学習の成果が現れていると考えられる。

物理領域から出題した⑦、⑧は、コイルやふりこを用いた実験を題材として、電磁誘導や物体の運動についての知識・理解や興味・関心などをみることをねらいとした。⑦では全体的に正答率が低かった。問3についてはモーターという解答が多かったとの報告が高等学校から寄せられている。電流と磁界の相互作用について、日常生活と関連付けながら、見方や考え方が養われるよう指導を工夫したい。⑧ではエネルギーの変換や保存に関連した問題である問2の正答率が低かった。また、問3(1)のbについて、重さやおもりなどの解答が多かったとの報告が高等学校から寄せられている。用語の正確な使い方を身に付けられるよう指導を工夫したい。

2 今後の課題（授業改善のポイント）

(1) 理科の思考力・表現力を高める学習活動の推進を

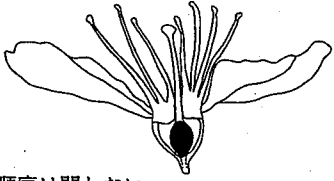
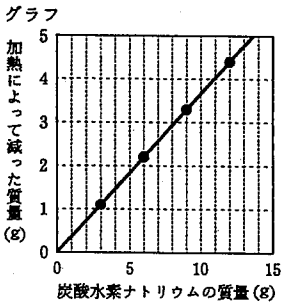
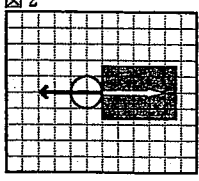
授業の中で、根拠をもって選択する、予想する、結論づける、説明するという一連の活動や、実験の結果を、データの分析などを通して解釈し、考察に結び付ける活動を重視することによって、科学的な思考力・表現力を育てられるよう工夫したい。

(2) 問題解決の能力を育てる指導計画の工夫を

生徒の思考の流れや表現の様子などが分かるような資料を効果的に活用し、指示や説明などの指導を客観的に振り返ることで、生徒が単元を通して探求し続けられるような指導計画となるよう工夫したい。

理科 問題別正答率 (%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

問	正 答	配 点	備 考
1	問1 (備考欄に示す。) 66.8 問2 ウ, オ 61.7 問3 (1) a 道管 b 気孔 a 86.3 b 91.4 (2) イ 89.5 (A) (B) 問4 《選択問題》 選択率 16.4 81.1 (A) (例) 子の形質は、両親から受けつぐ遺伝子の組み合わせにより決まるから。57.4 (B) (例) 葉脈は網目状になっており、根は主根と側根からなる。91.4	14	問1 図1  問2 順序は問わない。
2	問1 イ 96.0 問2 (例) 消費者である動物は、生産者とはちがって養分をつくり出せないため、自力で移動できないと養分を得られないから。65.5 問3 (1) e せきずい f 反射 e 88.1 f 96.2 (2) ウ 46.6	11	
3	問1 (例) 低気圧の中心部では、上昇気流が生じ、雲がでやすいから。68.5 問2 イ 49.9 問3 (1) (C) 53.6 (2) 2 (割から) 8 (割まで) 48.0 問4 (1) (例) 気温 83.8 (2) (例) アメダス 19.4	14	問3 (2) 両方できて正答とする。 問4 (1) 「風向」などでもよい。 (2) 「地域気象観測システム」でもよい。
4	問1 日周運動 65.2 問2 (金星の位置) エ (月の位置) キ 53.9 問3 (1) (例) 金星と地球との距離が小さくなったから。56.1 (2) A, B, C 79.0	11	問3 (2) 順序は問わない。
5	問1 CO ₂ , H ₂ O 67.1 問2 (備考欄に示す。) 75.5 問3 31.2 (g) 42.3 問4 (例) それぞれの物質を少量水にとかして、フェノールフタレイン溶液を加えると、炭酸水素ナトリウムの方はうすい赤色に、ステンレス皿の中に残った物質の方はこい赤色になる。41.0	14	問1 順序は問わない。 問2 グラフ  問3 「皮ふにつける。」などでもよい。 問4 順序は問わない。
6	問1 沸点 79.0 問2 (例) 試験管Bにとった液体にふくまれるエタノールの割合は、試験管Aにとった液体にふくまれるエタノールの割合より小さいから。73.911 問3 (例) においをかぐ。54.7 問4 ウ, エ, カ 96.8		
7	問1 エ 41.2 問2 (1) (例) コイル1のつくる磁界が、コイル2のまわりの磁界を変化させたから。51.2 (2) オ 18.1 問3 (例) 発電機 34.8	12	問3 「マイク」などでもよい。
8	問1 (備考欄に示す。) 78.2 問2 ウ 32.9 問3 (1) a 比例 b 質量 a 83.0 b 59.8 (2) ウ 53.6	13	問1 図2 
		合計 100	

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

英語

1 結果の考察

①のリスニング・テストは、日常の様々なコミュニケーションの場面を想定し、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力、聞き取った英文を書き取る力などをみることをねらいとした。8割を超える平均正答率は、「聞くこと」「話すこと」の領域における指導がおおむね適切に行われていることを示している。4のNo.1のディクテーションでは構文知識の確かさが得点の差として現れたようである。No.2については、Augustの綴りの不正確さが目立つとの指摘が多く的高等学校から寄せられた。

②は、基本的な言語材料についての知識を場面に応じて適切に活用し、対話の流れを正しくとらえ、対話の内容に合った正しい英文を構成する力をみることをねらいとした。思考力を要する度合いが大きいくほど、正答率が低くなる傾向は今回も変わらない。機械的な反復練習にとどまらず、文意・文脈を正しく踏まえながら、条件に合致する表現を見付け出し、それを実際に使用する言語活動が必要である。

③、④は、主に「読むこと」の領域の出題とし、図表やデータを参照しながら英文の内容を理解する力や、ストーリーのあらすじや大切な部分を読み取る力、登場人物の心情をとらえる力などをみることをねらいとした。③の1における9割の正答率には、英文の大意を把握する力の高さを見て取ることができ、「読むこと」の指導における一つの成果を示すものと評価できる。一方、詳細な内容を正確に把握することが求められる問題や、読み取った内容を踏まえて記述する問題の指導には、工夫の余地が多く残っていると考えられる。④では、特に4と6(2)の正答率がいずれも3割台と低く、記述式の問題に対応する力の弱さが浮き彫りとなった。

⑤は、「書くこと」の領域の出題とし、自分の意見や考えなどを、一定の条件下で積極的に書いて表現する力をみることをねらいとした。今回は「3文以上」から「4文以上」へと量的な条件を改めたことに加え、「まとまりのある回答となる」ことを求めたことにより質的な条件も厳しくなった。それにも関わらず、選択率・正答率はともに昨年度に比べ上昇した。単純な比較はできないが、「書くこと」の指導において学習の動機がよくコントロールされている傾向を示すものと評価できる。

2 今後の課題（授業改善のポイント）

(1) しっかりとした英語力を保証する年間指導計画を

初期指導から高校英語への橋渡しまでを見通した指導のビジョンをもち、何を、いつまで、どのような方法で身に付けさせるのかが明確な年間指導計画を作成したい。また、到達度の低い文法事項などを、必要に応じて繰り返し学習できるような指導計画となるよう工夫したい。

(2) 他者とのかかわりやつながりの質を重視した言語活動の工夫を

単なる情報の伝達や交換によって成立する活動にとどまらず、英語を使って思いや考えを伝え合うことを通して、相手との共通点を発見して喜び合ったり、違いを認め合ったりすることにより、人間関係の質が向上するような言語活動を展開したい。

(3) あらゆる機会をとらえて、英語を使用することのできる場面の創出を

興味のある分野について様々なメディアを活用して英語で情報を入手したり、身近な外国人との挨拶や何気ない言葉のやりとりを楽しんだりといった英語使用の機会を、できるだけ多く日常生活に取り入れるように促したい。

問	正 答								配 点	備 考	
1	1	No.1	ア 89.5	No.2	イ 72.0	No.3	エ 78.4		30		
	2	A	牛乳 96.0	B	たまご 92.5	C	18 87.1	D			9時30分 88.4
	3	No.1	イ 71.4	No.2	ウ 85.7	No.3	エ 72.5				
	4	No.1	But my brother is not as tall as yours.					76.0			
		No.2	(例) It is August.					65.8			
2	1	(1)	did 33.7	(2)	nothing 9.4	(3)	seasons 57.4		18		
	2	(1)	ウ 83.0	(2)	エ 87.6						
	3	(1) (The) one on the desk is mine (.)									37.7
		(2) (I can't believe that) there are so many languages used (in the world.)							21.0		
3	1	㊸							90.0	12	3 順序は問わない。
	2	(例) 米をたくさん食べることや、漢字を使うこと。							63.1		
	3	ウ、オ							ウ 64.2 オ 73.6		
4	1	イ							68.7	30	
	2	ア							73.3		
	3	The students were surprised							45.0		
	4	(例) 仲間と働くことが好きだし、仲間と一緒に町をより良くしたり、町に住む人々が生活を楽しんだりできるようにしたいと思っているから。							34.2		
	5	money							47.4		
	6	(1) (例) No, they didn't.							47.7		
		(2) (例) She was making dinner with her mother.							31.5		
7	I	エ 64.2	II	ア 62.5	III	イ 52.8					
5	<p>《選択問題》</p> <p>㊸ (例) I practiced judo very hard. We only had five members in our club. But we could make a good team. We always did our best.</p> <p>㊹ (例) I want to go to Aomori to visit my grandparents. I haven't seen them for a long time. I'm going to visit them soon. I'll be glad to see them.</p>								10	受検者の多様な表現を積極的に評価すること。	
								合計 100			
									選択率	正答率	
								A	31.8	88.1	
								B	55.5	92.8	
								無選択	12.8		

[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

平成22年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
中学校卒業者数		12,623	12,689	12,094	11,841	12,070	
全 日 制	県 立	入学定員	8,560	8,560	8,440	8,320	8,200
		入学志願者数	9,029	9,094	8,783	8,594	8,641
		倍 率	1.05	1.06	1.04	1.03	1.05
		合格者数	8,128	8,238	7,958	7,811	7,780
		最終倍率	1.05	1.06	1.03	1.02	1.04
		充足率	95.0%	96.2%	94.3%	93.9%	94.9%
	市 立	入学定員	480	480	440	440	400
		入学志願者数	507	580	535	498	516
		倍 率	1.06	1.21	1.22	1.13	1.29
		合格者数	443	457	440	440	400
		最終倍率	1.06	1.21	1.21	1.13	1.29
		充足率	92.3%	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%
	合 計	入学定員	9,040	9,040	8,880	8,760	8,600
		入学志願者数	9,536	9,674	9,318	9,092	9,157
		倍 率	1.05	1.07	1.05	1.04	1.06
		合格者数	8,571	8,695	8,398	8,251	8,180
		最終倍率	1.05	1.07	1.04	1.03	1.05
		充足率	94.8%	96.2%	94.6%	94.2%	95.1%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者数	172	213	167	221	168	
	倍 率	0.61	0.76	0.60	0.79	0.60	
	合格者数	150	161	146	167	153	
	最終倍率	0.59	0.75	0.59	0.77	0.59	
	充足率	53.6%	57.5%	52.1%	59.6%	54.6%	
総 計	入学定員	9,320	9,320	9,160	9,040	8,880	
	入学志願者数	9,708	9,887	9,485	9,313	9,325	
	倍 率	1.04	1.06	1.04	1.03	1.05	
	合格者数	8,721	8,856	8,544	8,418	8,333	
	最終倍率	1.03	1.06	1.02	1.02	1.04	
	充足率	93.6%	95.0%	93.3%	93.1%	93.8%	

(注)

- (1) 倍率=入学志願者数÷入学定員 最終倍率=受検者数÷入学定員
- (2) 充足率=合格者数÷入学定員×100
- (3) 中学校卒業者数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年の生徒数による。

2 課程別・学科別

課程	区 分	入 学 定 員		受 検 者 数		合 格 者 数		
	学 科	人 数	前年度比	人 数	最終倍率	人 数	充足率	
全 日 制	普通科	4,680	▲80	4,988	1.07	4,478	95.7%	
	専門教育を主とする学科	理 数	120	0	138	1.15	120	100.0%
		音 楽	40	0	20	0.50	20	50.0%
		体 育	80	0	83	1.04	80	100.0%
		農 業	560	0	511	0.91	505	90.2%
		工 業	1,440	0	1,471	1.02	1,375	95.5%
		商 業	640	▲80	745	1.16	636	99.4%
		水 産	80	0	82	1.03	80	100.0%
		家 庭	120	0	128	1.07	120	100.0%
		看 護	40	0	47	1.18	40	100.0%
	総合学科	800	0	829	1.04	726	90.8%	
	合 計	8,600	▲160	9,042	1.05	8,180	95.1%	
定 時 制	普 通	200	0	138	0.69	128	64.0%	
	工 業	80	0	28	0.35	25	31.3%	
	合 計	280	0	166	0.59	153	54.6%	
全 定 合 計		8,880	▲160	9,208	1.04	8,333	93.8%	

(注)

(1) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

(2) 入学定員で160名の減は、南陽・鶴岡中央温海校・酒田北・酒田中央高校の各1学級(40名)減による。

3 推薦入学者選抜実施状況（平成22年度）

区分	課程 学科	全 日 制											
		普通	専 門 教 育 を 主 と す る 学 科										総合学科
			理数	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護		
入学定員	4,680	120	40	80	560	1,440	640	80	120	40	800		
募集人員	約 656	約 26	16	約 56	約 206	約 524	約 206	約 32	約 42	約 14	約 234		
志願者数	804	30	19	70	81	367	242	8	48	24	144		
内定者数	649	24	16	60	74	353	197	8	45	16	144		
志願倍率	1.23	1.15	1.19	1.25	0.39	0.70	1.17	0.25	1.14	1.71	0.62		
充足率	98.9%	92.3%	100.0%	107.1%	35.9%	67.4%	95.6%	25.0%	107.1%	114.3%	61.5%		

区分	全 日 制
	計
入学定員	8,600
募集人員	約 2,012
志願者数	1,837
内定者数	1,586
志願倍率	0.91
充足率	78.8%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		約 18	約 30	約 48
志願者数		5	0	5
内定者数		4	0	4
志願倍率		0.28	0.00	0.10
充足率		22.2%	0.0%	8.3%

※ 定時制は、霞城学園高校、米沢工業高校、鶴岡工業高校の3校で実施（霞城学園高校のみ志願有り）

区分	全 日 制 ・ 定 時 制 総 計
入学定員	8,880
募集人員	約 2,060
志願者数	1,842
内定者数	1,590
志願倍率	0.89
充足率	77.2%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
- (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
- (3) 推薦入選で志願者があった学校
全 日 制：47校101学科
定 時 制：1校 1学科
- (4) 募集人員（実施要項より）
普 通 科：20%以内
理数科・音楽科：40%以内
体 育 科：70%程度
職業に関する学科：40%以内
総合学科：40%以内